

令和6年度

(2024年度)

学校運営評価報告書

茨城県立中央看護専門学校

学校評価委員会

I 学校評価について

1 はじめに

本校は、社会に貢献する質の高い助産師・看護師の育成において、その教育活動における弱点を改善するため、平成17年度より自己評価を開始した。平成25年3月に、文部科学省生涯学習政策局通知より「専修学校における学校評価ガイドライン」が示され、評価結果の公表を開始した。

さらに、自己評価の客観性・透明性を高めるため、令和元年度より、学校評価の運営方針及び運営方法を再整備し、より広い視野から評価を頂けるよう学校関係者による外部評価「学校関係者評価」を開始し、教育機関としての組織力・教育力の向上を図っている。

2 評価の基本方針

- (1) 学校の教育目標、計画に沿った取組の達成状況、学校運営への取組が適切に行われたかを自己評価し、改善すべき事項及びその対策について明確にするとともに、その結果を公表する。
- (2) 学校と密接に関連する地域関係者・行政・教育関係者・実習施設の指導者・卒業生等の立場から自己評価の結果を客観的に評価していただき、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、教育活動の質の向上、地域関連機関との連携強化を目指す。その結果は自己評価と同様、ホームページに掲載し広く社会に公表する。

3 評価体制

- (1) 学校評価委員は学校長、副参事兼教頭、教頭、各学科教務主任、各学科専任教員3名の10名。必要な事項は実施要綱に定めて管理・運営している。
- (2) 学校関係者委員は実習施設から2名、教育機関から2名、卒業生代表(同窓会会長)・行政から各1名の6名体制である。

4 評価の種類

- (1) 教職員が学校運営評価表を用いて学校運営全般を自己評価する「教職員による学校運営自己評価」
- (2) 令和6年度の重点目標(組織目標)達成に向けた取組状況を評価する「重点目標の評価」
- (3) その他として次の取組みを評価
 - ・学生の学校生活満足度調査結果
 - ・公開授業「基礎看護技術演習」に参加した臨地実習指導者からのアンケート調査結果

II 教職員による学校運営自己評価

I 自己評価の実施

対象:教職員32名(学校長、会計年度職員除く) 内訳:教員:29名、副参事・庶務:3名

基準日:11月30日 調査期間:令和6年11月20日~12月6日

調査方法:校内ネットワークを用い、教職員個別にデータを入力。入力データをもとに集計。

評価基準:4段階尺度…4-とてもそう思う 3-まあまあそう思う 2-あまりそう思わない 1-そう思わない

有効回答:100%

2 評価項目(大・中項目)の評価結果 ※助産学科・3年課程・2年課程・庶務の評価 2ポイント台は赤字

	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
1 教育理念等	3.5→ (3.5)	1-1 教育理念等の設定	3.7	4.0	3.6	3.3	4.0
		1-2 教育理念等の到達評価	3.3	3.6	3.6	2.6	3.6
		1-3 学校の将来構想の明文化	3.5	3.8	3.6	2.9	3.8
<分析> 前年度の学校運営評価結果を基に、年度当初に運営方針や重点目標などを設定し、その後の教育活動に反映できるように教職員に周知している。							
大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
2 学校運営管理	3.5→ (3.5)	2-1 学校経営	3.6	3.9	3.5	3.1	3.9
		2-2 組織の整備	3.4	3.6	3.3	3.0	3.8
		2-3 危機管理	3.4	3.4	3.3	3.3	3.6
		2-4 情報管理	3.7	3.7	3.6	3.5	3.8
		2-5 教職員の協働意欲	3.2	3.2	3.0	2.9	3.8
<分析> 令和8年度からの4年制化、看護学科2年課程の募集停止が昨年度末に決定し、カリキュラム作成や設備修理など、今後の学校運営について共有する機会が増えた。また、チーム制(学年運営・実習指導)開始から2年目となり、担当業務の整備を進めながら運営している。低い項目は、教職員の業務の調整・管理体制の整備、職員の協働意欲、情報システムによる業務の効率化であった。チーム内で新任教員の割合が高い学科では、業務が集中する教員が発生していることも要因である。Wi-Fi が整備されているが、業務の効率化までには課題がある。							
大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
3 教育活動	3.6↓ (3.7)	3-1 教育課程の編成	3.8	3.9	3.7	3.5	3.9
		3-2 学生支援・ガイダンス	3.8	4.0	3.6	3.7	3.9
		3-3 科目担当・時間	3.2	3.2	3.0	2.9	3.5
		3-4 対象者への実習協力依頼	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0
		3-5 授業方法の工夫・研究	3.5	3.8	3.2	3.2	3.8
		3-6 授業評価	3.8	4.0	3.5	3.8	4.0
		3-7 単位の管理	3.9	4.0	3.8	3.9	4.0
		3-8 教員の育成	3.4	3.7	3.3	3.0	3.7
<分析> 評価が低い項目は、科目担当時間と教員の育成であった。教育の質を担保し教育活動を実施するために、学生の特性に合わせた対応や、臨地実習指導に時間がかかる。そのため、各教員の授業・演習の準備が業務時間内に組み入れることが困難であることが要因である。さらに、各教員はカリキュラム運営上、専門領域外の授業や実習担当をせざるを得ない状況であり、新しい科目の授業担当の場合は、準備に時間を要することも要因である。新任教員の受け入れ体制の整備のため、ラダー制度を運用開始したが、一人前、中堅教員のラダーは未整備である。							
大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
4 学修成果	3.7↑ (3.6)	4-1 資格取得	3.8	4.0	3.5	3.9	3.9
		4-2 看護実践力	3.6	3.8	3.4	3.2	3.9
		4-3 就業率・進学率向上支援	3.8	4.0	3.7	3.8	4.0
		4-4 国試不合格者の支援体制	3.8	4.0	3.7	3.5	3.8
		4-5 キャリア支援	3.5	3.4	3.4	3.3	4.0
<分析> 卒業までの技術到達度の達成状況をデータ集計し、臨地実習での積極的な経験に繋げている。卒業生へのキャリア支援については、来校時に相談に応じ、キャリアアップにつなげている。							

大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
5 学生支援	3.8↑ (3.7)	5-1 学習支援	3.8	4.0	3.5	3.7	4.0
		5-2 健康管理・感染・安全対策	3.9	4.0	3.8	3.8	4.0
		5-3 進路・就職への支援	3.6	3.8	3.5	3.4	4.0
		5-4 学生相談の整備	3.8	3.9	3.5	3.9	4.0
		5-5 生活環境支援体制	3.8	4.0	3.4	3.9	3.8
		5-6 保護者との連絡体制	3.8	4.0	3.5	3.9	3.9
		5-7 経済的支援	3.9	4.0	3.8	3.9	4.0

<分析> チーム制となり2年目となる。学年担当教員がクラス運営に専念したことで、学年の特性や学生一人一人に合わせた支援が出来ている。また、保護者との連携を密に行い、学習支援へ連携協力の対応ができています。丁寧に関われる反面、各教員への業務・心理的負担が多く感じられている。学科内の業務をもう一度見直し、業務効率化に向けた対応することが喫緊の課題である。

大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
6 教育環境	3.7↑ (3.6)	6-1 校舎の整備	3.6	3.8	3.6	3.2	3.8
		6-2 福利厚生	3.9	4.0	3.8	4.0	4.0
		6-3 図書室の整備・管理	3.9	4.0	3.8	3.7	3.9
		6-4 教材の整備・管理	3.7	4.0	3.4	3.4	3.9
		6-5 実習施設の整備	3.6	3.9	3.6	3.2	4.0
		6-6 実習指導体制	3.7	4.0	3.5	3.4	4.0

<分析> 校舎の老朽化に伴い、教室のエアコン故障や雨漏りなどがあり、校舎の整備は評価が低い。オンライン授業の学習環境は整い、随時感染者に合わせて柔軟に対応できた。教育環境としての実習施設の整備では、実習指導者の連携協力体制が不十分である施設も確保せざるを得ないのが現状である。学科・学年間で施設予約が重複することもあり、学生の自主学習の環境は厳しい。

大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
7 学生の受入れ募集	3.7↑ (3.5)	7-1 学生募集	3.8	3.9	3.7	3.6	4.0
		7-2 入学選抜	3.8	4.0	3.8	3.6	4.0
		7-3 学生の充足	3.3	3.5	3.4	3.0	3.5

<分析> 進学が「ダ」に参加や、高校訪問は以前同様に積極的に再開した。また、オープンキャンパスは対面(在校生参加)やオンライン、個別対応など、各学科で工夫して募集活動を実施した。看護学科3年課程は受験応募者が昨年度より増加した。助産学科の受験希望者は多く、一般入試では6倍となっている。

大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
8 財務	3.7↑(3.6)	8-1 予算執行状況・財務	3.7	4.0	3.5	3.5	3.9

<分析> 年度当初の教職員会議で運営予算について説明をうけ、運営会議では、毎月の決算状況の報告を受けている。そのことにより財務関係の意識は高まっているが、個人差はある。

大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
9 法令等の遵守	3.9↑ (3.7)	9-1 法令・設置基準等の整備	3.8	4.0	3.6	3.8	4.0
		9-2 個人情報規程の整備	3.9	4.0	4.0	3.7	4.0
		9-3 学校評価の実施公表	3.8	4.0	3.8	3.4	4.0

<分析> 学校運営に必要な諸規程を整備し運営しているが、見直しは不十分である。また、毎年個人情報保護や情報セキュリティ研修、ハラスメント防止研修を積極的に受講し、意識付けしている。

大項目	評価(参考R5)	中項目	平均	助産	3年課程	2年課程	庶務
10 社会貢献・地域貢献	3.8↑ (3.6)	10-1 教育資源・施設の活用	3.8	4.0	3.7	3.6	4.0
		10-2 学生ボランティア活動	3.8	4.0	3.6	3.9	4.0
		10-3 地域との交流支援	3.6	4.0	3.0	3.6	3.8

<分析> コロナ禍以前のように、ボランティア活動の依頼が開始された。新たなボランティア依頼への参加でき、今後も各学科で参加できるボランティアを積極的に検討していきたい。

3 重点目標に関する評価

(1) 評価結果 ※評価基準：4段階尺度 … 4:とてもそう思う 3:まあまあそう思う 2:あまりそう思わない 1-そう思わない

○重点目標1 高い学力の育成と探求的な学習の確立

細目標 ()は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	細目標 平均	助産	3年	2年	庶務
(1) アクティブ・ラーニング型の授業及び ICT 教育環境を促進し、能動的な学習を支援する。(2-2-20,3-5-47,3-5-49,3-5-51)	3.7	3.5	3.7	3.4	3.1	3.9
(2) 学生の習熟度に応じた指導を強化し、国家資格獲得に向けた支援を継続する。(4-1-68,4-1-69,5-1-76,5-1-77)		3.8	4.0	3.5	3.1	4.0
取組状況、要因等と課題						
<p>(1) ・全学科改正カリキュラム運用となり、個別学習やグループワーク、シミュレーション演習を取り入れ、学生の考える力を引き出せるよう学習方法の工夫が推進した。また、映像教材(ビジュアル)を積極的に導入し活用している。</p> <p>・シミュレーション学習の推進のため委員会を立ち上げ2年目となる。今年度も2名ベシック研修に参加した。委員会メンバーの支援を受け、演習や実習前準備、各領域看護過程の展開の授業で、模擬患者やシミュレーターを使用し、対象や症状に合わせた看護が実施できるようシミュレーション学習を実施している。</p> <p>(2) ・全学科、入学時より外部講師や模擬試験等の国家試験対策を計画立案し実施している。</p> <p>・学習意欲の低下、学習低迷者の科目終了試験、模擬試験の結果を教員会議で情報共有し、必要に応じて個別の学習支援や保護者への連絡等の対応を行い、学習支援の強化をしている。</p> <p>・卒業学年の年末には、保護者宛に文書で、国家試験に向けた学習状況と環境、心理面等への支援依頼を発送している。</p> <p>・入学時や実習前後の面接や日頃の学習への取り組みには、個人差があり、近年は特性も多様である割合が多い。そのため、教員の支援も苦慮するケースもある。少人数制での演習や個別指導にて支援を強化して対応している。</p>						
今後の取組						
<p>(1) アクティブ・ラーニング型授業を積極的に取り入れ、学生の考える力を醸成し、自律に向けた学習支援の継続 →シミュレーション学習の推進、継続。視聴覚教材(動画配信)の積極的活用。</p> <p>(2) 入学時からの学習習慣の定着及び国家試験を意識した学習支援</p>						

○重点目標2 学生の総定員の確保

細目標 ()は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	細目標 平均	助産	3年	2年	庶務
(1) 受験生獲得に向けて、戦略的に広報活動する。 (7-1-124・125,7-1-127・28)	3.8	3.8	3.9	3.8	3.6	4.0
(2) 保護者及びカウンセラーと連携強化し、学業継続に向けた支援をする。 (5-4-86・87,5-6-89・90)		3.8	3.9	3.6	3.7	3.9
取組状況、要因等と課題						
<p>(1) ・過去の入試状況を踏まえ、進路が「ダ」への参加や高校訪問、看護学校訪問を実施した。</p> <p>・オープンキャンパスは、対面で実施した。看護学科3年課程では、3回実施し毎回定員(100名)を達成する参加者であった。助産学科も、対面と遠方者対応としてオンラインで実施した。アンケート結果でも、満足度は高い。両学科の入学試験では、オープンキャンパスに参加している受験生は本校志望理由も明確であるため、積極的に学校の魅力を伝えられていると評価できる。</p> <p>・3年課程は、昨年の願者の急激な減少に対し、受験日を1ヶ月前倒した結果、推薦・一般入試とも今年度は10名増加した。助産学科の願者も例年同様、推薦は3倍、一般は5倍の倍率である。</p> <p>・2年課程は、4年制の導入とともに閉課の方向が示された。</p> <p>(2) ・各学科、学年担当教員が、定期的に面談を行い、学生の学習面や心理面への支援を行い、面接内容は、教員会議等で情報共有している。必要に応じて保護者へ連絡し、支援体制を行っている。</p> <p>・日頃の学習態度や欠席状況及び理由を想起に把握し、メンタルに不調のある学生や必要に応じて、カウンセリングを紹介し、継続的な支援を行っている。また、教員とカウンセラーが連携し、学生の対応などの助言を受け、一貫性のある対応を行っている。</p> <p>・休学中の学生も、カウンセリングは継続できるため、カウンセラーと定期的に状態を確認し、復学時の支援に繋げている。</p>						
今後後の取組						
<p>(1) 看護学科4年制入学生の確保のため、広報活動の強化 →県内高等学校訪問時の4年制化教育のカリキュラムの特徴、強みを周知 魅力ある学校案内作成、オープンキャンパスの周知、実施・評価</p> <p>(2) 学生個々の特性に合わせた対応を基本にした学業継続支援</p>						

○重点目標3 教員の教育力向上

細目標 ()は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	細目標 平均	助産	3年	2年	庶務
(1) 教員のキャリアラダー制度を整備する。(2-2-22,3-8-62~65)	3.6	3.6	3.8	3.5	3.2	3.7
(2) 教育の質向上に向けた実習施設・他の教育機関と連携強化を図る。(3-2-40,3-2-50,6-6-12)		3.6	3.9	3.5	3.3	3.8
取組状況、要因等と課題 (1)・新任教員に対するラダーを活用して、年間の研修計画を立案した。教育委員が中心となり、他教員の講義演習への見学なども実施した。今年度活動の評価を行う予定。今年度、試行で講師以上の昇格者に、学校経営に関する研修を実施した。学校運営全体に視野を広げる機会となったとの意見が聞かれたことから、中堅以降のラダー整備は、早急に行う必要がある。 (2)・実習施設との連携強化のために、実習指導者会議を定期的に行い、学生の実習状況の報告や指導のディスカッションを実施した。 ・今年度は OSCE 導入に向けた研修会を企画し、さらに県内看護大学(2校)の OSCE 見学ができた。本校の OSCE の方法として、今後、計画的に構築する必要がある。 ・教育力向上のためにシミュレーション委員が中心となり年間演習への参加を計画した。学生背景、学習段階にあわせて教育方法を選択して対応し、他学科の教員も連携して演習協力できた。公開授業では、2施設からの見学があり、実習指導者の学生のレジネンス理解及び実習指導へ活用につなげている。						
今後の取組 (1) キャリアラダー制度整備継続 (2) 臨地実習での教育効果向上のために、教員と指導者の連携強化継続、公開授業継続、OSCE チームの始動						

○重点目標4 組織の効果的及び効率的な運営の推進

細目標 ()は自己点検自己評価の小項目 NO	平均	小項目平均	助産	3年	2年	庶務
(1) 業務上の効率化にむけ組織改革を推進する(2-1-12・13)	3.4	3.4	3.6	3.3	2.8	3.8
(2) 職員が相互に啓発・協働し支えあう風土を醸成し、効率的・効果的な組織運営を図る(2-5-29・30)		3.3	3.2	3.1	3.1	3.8
取組状況、要因等と課題 (1)・業務効率化を目指し、学年・実習チームに分けて運営し2年目となる。年度末に各々の業務内容を整理し、年度当初には、各チームの役割を確認しスタートした。学年チームのサポートに実習チーム内から学年担当補助教員を選出し対応している。また、必要に応じて学年チーム教員が実習指導を担当し、補完しながら運営した。一方で、業務過多になる時期は、個人差が大きく、チーム制になったことにより、業務量がお互いに見えにくい面もある。 ・教員会議資料の共有や実習指導での連絡に Webex を積極的に活用している。また、実習指導では直行直帰を推進し、旅費の削減や業務効率化を図った。一方で、教員の配置転換や配置数減により、中堅以上の教員にかかる業務量が増加したことで、評価ポイントは低い。そのため継続した業務効率化をすすめるために、より具体的で現実的な対策を講じることが急務である。 (2)・各学科とも朝のミーティングを継続し、学科内の動き、業務の進捗状況や学年の予定などを確認し、業務調整を行っている。 ・配置転換、担当業務の変更により、精神的余裕がなく、各自の担当業務をこなすことで精一杯だった。他学科との情報共有は少ないが、学科間で実習・演習サポート、授業担当など協力し合うことができています。 ・一方で、立場や役割を理解が不十分であり、一部の教員しかコミュニケーションが図れていないという意見もあり、情報共有や意見が出せない教員や経験の少ない教員は意見が言いづらい環境になっていることもある。						
今後の取組み: (1) 教育の質を低下せず、業務の効率化をさらに推進する対策を検討 →業務内容の優先順位と整理(単純作業の洗い出し含)、業務の標準化とマニュアル化、ICT 活用、チーム内の業務分担の明確化と担当制。 (2) オープンなコミュニケーションを促進し、心理的安全性を高め、教員が安心して協力し合える職場環境の構築 →教員同士「傾聴」の姿勢を示し、個人を責めず課題解決に焦点を当てる話し合いを行う。感謝やねぎらいの言葉かけを継続し、「教育の質を高める」共通目標を再認識する。 教員同士で業務の進捗状況を共有し、協力し合う体制を構築(補完的にチームを支える)。						

Ⅲ 学校関係者評価報告書

茨城県立中央看護専門学校は、「令和6年度茨城県立中央看護専門学校の自己点検・自己評価結果報告書並びに重点目標評価報告書」を基に、学校関係者評価を実施しましたので、次のとおり報告します。

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

(1) 評価体制

<学校関係者評価委員>

外塚 恵理子 茨城県立中央病院看護局副総看護師長
 箱守 千春 訪問看護ステーションやまびこ管理者
 角 智美 常磐大学看護学部 准教授
 津賀 宗充 茨城県立 IT 未来高等学校 学校長
 重原 裕美 笠間市こども部 こども育成センター長
 藤田 繁好 看護学科 2 年課程同窓会長

<学校側>

高柳 久美 学校長
 山口 宏隆 副参事兼教頭
 市毛 啓子 教頭
 蛭田 京子 主査

(2) 学校関係者評価委員会

日時 令和7年2月17日(月) 午後1時 30 分から 15 時

場所 茨城県立中央看護専門学校 講義棟 会議室 B

出席者 8 名 関係者委員4名(外塚委員、角 委員、藤田委員、重原委員)、学校側 4 名

欠席者 2 名 関係者委員2名(津賀委員、箱守委員) *意見聴取期間:令和7年 2 月7日から 2 月 28 日

2. 評価結果

(1) 学校評価・自己評価について(大項目の評価)

- ・学校運営の変革期において、昨年より高くなっている項目が多いのは、素晴らしいと思えました。
- ・各項目・分析が細かになされているので、継続的に課題解決に取り組んでほしい。また、4年制化に伴い、教職員の資質向上と業務の効率化について検討し、教職員が協働して学生を育成できる体制構築にご尽力いただきたい。
- ・学校運営の様々な観点について、全員で振り返り、集約されていることは、参考にしたい。学生支援では、効率化できること出来ない事一律に整理することは難しい面もありますが、初等中等教育、専門教育の区別なく、よりフアンベースの学校形成を意識しないといけない時代になっていくと思う。

(2) 重点目標の評価について(評価委員から提出された重点目標の評価・意見の集計)

<評価基準> 4:とてもそう思う(良い) 3:まあまあそう思う(やや良い) 2:あまりそう思わない(やや不十分) 1:殆どそう思わない(不十分)

重点目標1 高い学力の育成と探求的な学習の確立	平均	各委員の評価					
	3.5	3	4	3	3	4	4
<意見> ・国家試験の合格率が高い点、それを維持している点は素晴らしいです。強みとして継続していただきたいです。 ・4 年制に向け、より感覚を利用する学習や IT のさらなる活用を期待します。 ・本校でも映像教材は多用しているが、学習歴の管理が課題です。最初は教員の自作教材や YouTube 上の教材を使っていましたが、次年度から一部の学習内容を LMS(学習管理システム)機能付きの映像教材を活用することとした。生徒の学習歴が残るので、指導助言も楽になることを期待している。 ・アクティブラーニング型の授業により一人一人が考える力を引き出せるよう工夫された授業をすることで実習でもイメージが出来ているため、学びやすい環境が整備されている。映像教材の利用で、教科書よりも理解しやすくなっていると思う。 ・3年課程の評価が平均よりやや低い。教材の工夫を導入検討されているので、知識は製造、思考は人(教員)など工夫すると教員の負担軽減になるのかと思いました。							

重点目標2 学生の総定員の確保	平均	各委員の評価					
	3.7	4	4	3	3	4	4
<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別的な支援をされているのが伺われます。国家試験合格率も強みになると思います。 ・少子化の中、学生確保はどこも課題です。今後大学校になることで合格率が高い強みを生かせば確保できると思います。 ・需要と魅力ある学習形態から今後が期待されます。 ・学校が大きく変わる時期で、生徒募集も暫くは手探りかと思います。周知活動でご協力も可能ですのでご相談ください。 ・カウンセラーの効用は絶大です。本校でも気軽に利用しています。カウンセリング内容の報告もシステム化されうまく機能している。状況によりSWにもお世話になっており外部の方に協力いただいている。 ・広報活動の取り組みにより、より多くの学生が興味を持ち出願できるよう努力されていることが伝わります。 ・現在は学生カウンセリングを受けられる体制であり、一人でも多くの学生が不安なく学業に専念できるような環境が整っていると思う。今後、経済的な負担が出てくる学生に対する相談体制があると、安心して学業に専念できると思う。 							
重点目標3 教員の教育力向上	平均	各委員の評価					
	3.3	3	3	3	4	4	3
<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業を受け、基礎教育から現任教育の継続を今後も互いに連携強化したい。 ・“学校経営”を学ばれることは視野が広がるのでとても良いと思います。 ・選ばれる学校となるための教員の方々の努力が伺えます。 ・教員の研修会が計画的に実施されており、教育力向上に向け、積極的に取り組まれていることが分かった。 ・OSCE では学生にとって自分のできること出来ないことが明確となり、実習において何に注意すればいいのかが指針にもなると思う。ただし、それに合格することが目的となり、本来の狙いを理解しない学生もいると思います。実習中の課題について、OSCE も踏まえて振り返るなど、その効用を実感させることも大事かと思う。 ・教員のラダー活用、指導者会議により新任教員への教育サポートは整っていると感じました。研修や連携強化によりディスカッションし他の学校の良いところを沢山取り入れているところは素晴らしいと思います。 							
重点目標4 組織の効果的及び効率的な運営の推進	平均	各委員の評価					
	3.3	3	4	3	3	4	3
<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の心理的安全性は時代により変化し、課題です。人事異動をしておりますので実習施設としても考え、スタッフを教育(共育)していきたいと思えます。 ・教員のストレスが高まると組織の心理的安全性は低下していきます。ストレスを軽減して職場環境が高まると良いが…。今が良い機会です。 ・4年制化に向けさらに効果・効率的になることを期待します。 ・効率的、効果的な運営に向け、心理的安全性の高い職場環境づくりへの取り組みを期待します。 ・職場環境は大切です。本校も校内環境を整理しようとする大きな流れのなかで、職員室内、廊下等の掲示物も見直し、情報伝達の方法を再定義しました。学校が大きく変わる時ですので、チャンスかと思う。 ・ICT活用により、移動せず会議やコミュニケーションも可能であるため、チームで活用するアプリなどを活用しながらのコミュニケーション、業務分担も今後は可能かと思えますので、教員の方々の負担を出来るだけ軽減できる体制づくりに期待しています。 							

<全体を通して各委員より意見・意見交換>

〔外塚委員〕

- 意見**・国家試験合格率、入学した学生さんの卒業率など高率な面も、学校のアピールポイントだと思う。
・重点目標3について、教育連携をしていきたい。そのために、お互いに学校側の実際、臨床側の実際を知り、基礎教育のレベルを共有して意見交換していきたい。
・学生が“生命をあずかる”“社会人として”“看護師として”を自覚して、自律して、自律した看護師のため、基礎から現任教育で育て、育て合いたいと感じています。

〔角委員〕

質問・4年制化に対する在校生の反応はいかがでしたか？

学校→在校生全員に各教室で学校長が説明を行った。特に質問はなかったが、各教員は限られた年限で単位修得をすることを念頭に教育支援している。

意見・国家試験合格がほぼ100%、退学者が少ないということは、素晴らしいと思う。継続してほしい。
・評価者として3年目となるが、確実に良くなっていると思います。4年制の準備をしながら、評価の報告書をまとめる作業も大変だと思います。何か効率的に業務を削減できることがありましたら進めていただければと思います。

〔重原委員〕

質問・カウンセラーの支援も大切と思うが、学生の自己形成に関する研修の機会を確保し、人として成長できるような支援も必要ではないか。

学校→人間関係形成能力を付けるために、心理学、人間関係論などが科目としてあるが、臨地実習で対象の方と対峙することで、少しずつ育まれていく。そのため、学生と関わる際には、対話を大切にして経験の意味付けをしている。また、学習障害傾向の学生支援として、カウンセラーに助言をいただいている。

質問・アクティブラーニング型授業についても、学生満足度調査をしたほうが良いのではないか。

学校→授業評価は実施しているが、臨地での状況をリアリティにトレーニングする方法としてシミュレーション教育を実施しているが、かなりテクニックが求められているため、教員は学会主催の研修を受け、学内で教員に伝達講習を行い、スキルアップに努めている。

意見・学生満足度調査でポイントが下がっているが、先生たちが多忙なのかもしれないと思いました。少し意識することも必要なかと思いました。

〔藤田委員〕

質問・4年制化の準備等で、業務負担は多くなっているのではないか？

学校→実際、残業時間が多くなっており、学校として対策を講じるよう主管課から指導を受けている。対策の一つに、教務事務の分担の明確化、実習指導の方法が挙げられる。指導ガイドラインでは1日3時間以上の授業準備を持つことがあるが守られていない。授業の指導案作成に時間がかかる。新任教員には、担当事業の1か月前は実習指導には担当を外し、授業準備期間にあてている。教員でしかできないことを選別して運営していきたい。

質問・4年制化に伴い、校舎・施設整備の改修予定はどうか？

学校→大規模な改修はしないが、カリキュラム内容にあわせて改修を計画している。

意見・今後も同窓会として、学校を支援し、協力できることをしていきたい。

〔津賀委員〕

意見・今年度は、念願の戴帽式も参加させていただき、ありがとうございました。学校が大きく変わるときで、先が見えない中で、同時並行に進めないといけないことも多いと思います。地域の期待も大きいですから素敵な学校に変身されることを願っています。

〔箱守委員〕

意見・シミュレーション教育、グループワークなど学校が目指す学習の形が成果として見えてきていると、実習にくる学生たちを通して感じます。大変だとは思いますが、頑張っってより良い学習ができるよう私達も協力させていただきます。

IV 学校運営評価の総括

・今年度の学校評価自己評価・重点目標及び学校関係者評価委員の評価結果から得られた課題と次年度の取り組みについて

○重点目標の評価(自己評価・学校関係者評価の結果比較)

目 標	教員の自己評価	学校関係者評価
1 高い学力の育成と探求的な学習の確立	3.7	3.5
2 学生の総定員の確保	3.8	3.7
3 教員の教育力向上	3.6	3.3
4 組織の効果的及び効率的な運営の推進	3.4	3.3

今年度の課題及び次年度の取組

1 学校運営・管理に対して

・組織改革として、学年運営・実習指導チーム制の導入し2年経過した。昨年度、業務内容の見直しを行い、役割分担を整理して運営した。各チーム、年間活動の見通しを立てながら、補完的に運営出来た面もあるが、学年運営チームの業務量が多く、負荷がかかっていた。そのため、教務事務に委譲出来る業務を整理し、対応した。学生の背景の複雑さや特性の多様化もあり、個別に支援する時間が非常に多くなっているのは現状である。

次年度も、チーム制は継続しつつ、業務整理をすすめ効率的に教育活動を実施していく。効率化のためには、教員同士の対話をすすめ、協働意欲を促進できるよう組織風土の改善を目指していきたい。

2 教育活動に対して

・探求的な学習の確立に向けた取り組みを重点目標に掲げ、アクティブラーニングを推進するため、シミュレーション教育を導入し2年間となった。シミュレーション・ラーニング学会主催の研修受講者を中心として、今年度は作成したシナリオを活用して積極的に授業・演習に取り入れた。学生の反応や振り返りにより、課題も浮かび上がった。次年度も、学校全体でシミュレーション教育を発展させ、主体的な力の育成に取り組んでいきたい。

・教育の質向上に向けた取り組みに対して、臨地実習施設との連携強化のために、公開授業を継続している。2026年からの4年制化に向けて、教員の授業力向上を推進するため、公開授業、シミュレーション教育の継続を行い、教員のOJTを組織的に取り入れ、学校全体で進めたい。

3 学生の受入れ募集に対して

・高齢化や社会ニーズの変化により、幅広い知識や実践力の向上が求められる中、より充実した看護教育を展開するため、2026年度4月から、4年制化への移行が決定した。同時に入学生の著しい減少に伴う看護学科2年課程の募集停止が決定となった。

・今年度は、今後の学生確保に向けた取り組みについて、いま求められている看護教育とは何かを中心に検討をすすめ、時代に求められる看護師を養成するため教育課程の作成をすすめた。

・次年度は、4年制化移行に対し、本校の強みを活かし、新しいカリキュラムを創り上げ、受験生にとっての魅力を十分に発信し、学生確保につなげたい。継続して、進路ガイダンスや県内高等学校訪問を積極的に行っていきたい。4年制化に伴い本校の魅力を最大限に発揮できるような広報ができるよう、学校案内などを見直していきたい。